



近畿地域の経済は、横ばい傾向にある。

1. 全体の動向

個人消費や設備投資は持ち直しの動き、雇用も厳しいながら持ち直しの動きが続いているが、輸出は横ばいとなり、生産は弱含みで推移。政策効果の剥落や外需動向など先行きへの懸念が強い。

2. 個別の動向

(1)生産 ～弱含みで推移～

電子部品・デバイス、化学等堅調な動きもあるが、一部政策効果の剥落で輸送機械、鉄鋼等が低下したほか、足下外需の鈍化もあり弱含みで推移。

(2)設備投資 ～持ち直しの動き～

新興国の需要増から、多くの業種で海外拠点の拡充が活発化している。環境関連への戦略投資も積極的。一方、財務体質強化から減額修正するなど慎重な動きも一部にみられる。

(3)雇用情勢～依然厳しいものの、持ち直しの動きがみられる～

求人数や残業時間は引き続き増加傾向。賞与も昨年的大幅な下落から脱し、一部で前年比増に。雇用調整助成金等の届出も高水準ながら減少傾向。一方、失業率は依然高水準で厳しい。

(4)個人消費 ～持ち直しの動きで推移するも、一部に弱い動き～

緩やかなデフレの中、大型小売店の販売額はマイナス幅が縮小傾向。家電は政策効果の駆け込み需要がみられるが、エコカー補助金の終了やタバコ増税の反動もあり、持ち直しの動きが鈍化。

3. 地域経済のトピックス

○大企業では想定\$レートを85円～80円とし、海外調達を強化。海外展開を必要とする中小企業の裾野も拡大。地域金融機関では中国など海外事務所の機能を拡充するなど支援体制を強化する動き。

○年末の資金繰りを懸念する声は緊急保証制度や金融円滑化法等により少ないものの、財務内容が悪化している企業の増加を懸念する声もあり。

○23年度の新卒採用は抑制傾向で内定率も低水準。一方、国の支援策を活用した独自のトライアル雇用支援で中小企業の人材確保に成果を上げる自治体等の取組もあり。